

令和3年度第1回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和3年5月26日（水） 13時30分～14時30分
2. 会議場 松浦市役所 4階 第2・3委員会室
3. 出席者
 - 松浦市長 友田吉泰
 - 松浦市教育委員会教育長 今西誠司
 - 〃 教育委員 平原章宏、前田弘子、金井田秀規、氏山智美
 - 〔事務局〕 教育総務課 教育次長兼課長 小熊 盛、課長補佐 西岡智子
 - 学校教育課 教育次長兼課長 松本政美
 - 生涯学習課 課長 松永秀樹
 - 文化財課 課長 内野 義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 総合教育会議について
 - (4) 協議
 - ① 郷土を誇りに思うふるさと学習の推進について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	<p>それでは、ただいまから令和3年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたします。なお運営要綱第3条に基づきまして、本会は成立いたしております。まず初めに友田市長が挨拶いたします。</p>
市長	<p>改めまして皆様こんにちは。日頃から市政推進、そして松浦市の教育の充実にご尽力を賜りまして誠にありがとうございます。今日は、令和3年度第1回の総合教育会議を皆様方にご案内いたしましたところ、大変お忙しい中にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>もう1年前からずっと人に会う度に、会合がある度にお話をしている新型コロナウイルスですけども、なかなか収束せず、やっとここ数日は長崎県内も落ち着いてきたかなという状況でございます。依然として、長崎市を中心に、非常に厳しい状況が続いておりますので、油断をせず取り組まなければならないと思っていますところです。現時点において松浦市内の感染確認された方が15名。うち濃厚接触者や接触者について、小中学生が対象になり、非常に心配されたところでありましたけども、結果的に子どもたちに感染が拡がらず、大きな感染クラスターの発生もなく今のところ進んでおります。今、2,800人ぐらい長崎県内で感染されているんですけども、長崎県の人口で割りますと、およそ460人に1人が感染するような状況です。これを松浦市に当てはめると、松浦市では、46人から47人ぐらい感染していてもおかしくない、ということになります。基本的に、長崎市を中心に爆発的に感染されていますが、県民全体で見るとそういう状況であります。ですからもう誰が感染しても、どんなに気を付けていてもちょっとした油断で、感染をして</p>

	<p>いたりするというので、引き続きしっかり対応しなければならないと 思っております。65歳以上へのワクチン接種は、6月1日から実施を いたします。先週の月曜日から75歳以上対象に受付を開始し、今週月 曜日から65歳以上の受付を行っています。もう既にですね、6月1日 から6月21日までの枠は、ほぼ埋まりました。今日の朝から、第1回 を打った人は、次のその間に第2回目を打つための枠を設けないといけ ないものですから、次の予約は7月13日からになり、7月13日から の枠を今日9時から開いているという状況になっています。いずれにし ても、このような中、ワクチン接種をしていただき、いち早く収束をさ せたいと思っていますとこであります。</p> <p>今日皆様方に協議いただく内容は、郷土を誇りに思うふるさと学習の 推進についてでありまして、これは決して小中学生だけではなくて、私 達大人も松浦のことをしっかり分かって、そして誇りに思うことが大切 だろうと思っています。我々、行政としましても、最近の言葉で言えば、 シビックプライド、市民のプライドですね、市民がそういった誇りに思 う気持ちを、やはり醸成したい、喚起したい、そういう思いがあるもの ですから、ぜひ教育委員の皆様方からも率直なご意見を賜ればと思っ ているところでございます。どうぞよろしく申し上げます。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。続きまして、今西教育長お願いします。</p>
教育長	<p>改めまして、皆さんこんにちは。教育委員を代表いたしまして一言申 上げます。本日は本年度第1回目となります総合教育会議を開催して いただき、誠にありがとうございます。また日頃より、教育関係の施策 にご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。</p> <p>さて今年度に入って、教育委員会の取り組みとしてですね、印象深い ことがいくつかございました。まずは2年越しの仕事が事務局により実 施されました。5月8日の聖火リレー。事故や問題もなく無事に終了い たしました。トップランナーの高尾市スポーツ協会長もですね、最初は、 何か不安だったけども走れて本当に光栄だし、良かったということをお っしゃっていました。</p> <p>また、令和3年度子どもの読書活動優秀実践によりまして、中央図書 館が文部科学大臣賞を受賞いたしました。これはきらきら号による園児、 児童生徒の貸し出し、市民ボランティアと連携した読み聞かせなどが評 価されたもので、本当に嬉しく思っていますし、図書館の職員にとっ ても大きな励みになっていると思っております。</p> <p>最後に、5月23日の中総体球技武道大会。コロナによりまして無観 客ではあったんですけども、懸命に頑張る成長した姿が、印象的でたい へん嬉しく思いました。</p> <p>さて本日は、市長からもご紹介がありましたように、郷土を誇りに思 うふるさと学習の推進をテーマに意見交換をしたいと思います。児童生 徒はもとより、市民を挙げてふるさとの歴史や伝統、特色ある産業等を 学ぶことは、郷土愛を育むとともに、地元松浦市に貢献できる人材を育 成することにもつながると考えます。有意義な時間になるかと思いま すので、よろしく申し上げます。</p>

教育総務課長	<p>ありがとうございました。それではこれから協議に移らせていただきます。本日の協議事項は先ほどから出ておりますとおり、郷土を誇りに思うふるさと学習の推進というテーマで、委員の皆様方のご意見を賜りたいと存じます。議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により友田市長にお願いいたします。これ以降の議事進行をよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは私の方で議事進行を進めさせていただきます。早速、議題に入ります。議題の郷土を誇りに思うふるさと学習の推進についてでございます。まずは学校教育課から、本日の議題に関する状況や取り組みについて報告をお願いしたいと思います。その後、教育委員会の他の課から報告をお願いし、皆様方との意見交換に移りたいと思います。また、それ以外についても意見交換ができればと思いますが、おおむね会議の終了時間は14時30分を目途にしたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは学校教育課から取り組み状況について報告をお願いします。</p>
学校教育課長	議長
市長	はい、学校教育課長。
学校教育課長	<p>こんにちは。お手元の資料のレジメの次第の次からとしてある資料を、ご説明をさせていただきます。まず、総合的な学習の時間と称して、本市ではふるさと教育を進めていくということを教育振興基本計画でもうたっております。総合的な学習の時間とは一体何かということになるかなと思いましたので、参考資料をいくつか載せておりますが、ポイントだけ話をさせていただきます。</p> <p>まず1枚目は、中教審答申第2章2030年の社会と子どもたちの未来から抜粋しております。要はこれから2030年の子どもはこんな子どもになるだろう、あるいはこんな世の中だろうということを想定して、現在既に始まっております新学習指導要領が作られております。そもそも2030年の子どもの姿、アンダーラインを引いております真中の四角のところ、答えのない課題に対して多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができる、こういった2030年の子どもの姿をイメージして総合での時間を行っていくこととなります。</p> <p>続いてその下段の方に、中教審答申第2部と書いてあるのが、これまでの総合的な学習の時間の成果と課題ということについて、掲載されております。以前からも総合的な学習の時間では、どのように学んでいくのか、学びの探求プロセスを主軸に置いて、そのことが各教科の学び方、あるいは学習の理解などが進みますよ、定着しますよというやり方をしておりました。2枚目になるのですが、ただ、その資質能力をつけるにあたってどうしても学校によって差がある、というのが大きな課題となっておりました。特に弱かったところが、調べたことを整理分析したり、まとめたり表現したりする力、これがその取り組みが十分でないという</p>

結果でございます。要は時間的なもの、それから目に見えないような力を育てることですから、そういう点でまた指導の方法を確立できていない、そういった課題があったということです。

3ページになりますが、中ほどに中教審答申第2部第2章、これが新しい学習指導要領における総合的な学習の時間を考えたんですが、各教科には目標がありますが、その各教科の目標を横断的にですね、突き通す力としてカリキュラムマネジメントという考え方があるんですが、そのカリキュラムマネジメントを行った上で、総合的な学習の時間というあり方を計画し、実施していくようにということになりました。特に資質・能力をつけていくということで、大きな資質能力の観点があります。一つが、思考力・判断力・表現力ということ、もう一つが、学びに向かう力とか人間性とかいう大きな視点が設けられています。その下になります総合的な学習の時間小学校解説、小学校では9年間を通してその資質能力をしっかりと作ってほしいということ。これからは、小学校、中学校が一体的となって、総合的な学習の時間を年間指導計画等を作って相互の連携を図ってください、中学校においては小学校の学びの連続性を行い高等学校につなぎをしてください、ということになっております。こういった総合的な学習の時間の体系をもとに、4ページになりますが、松浦市教育振興基本計画の中で先ほど市長が申されたとおり、真ん中ほど施策の2、児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成、5番郷土を担う人材の育成という指標をもって、主な取り組みとしましては、市内小中学校においてふるさと教育と称し、総合的な学習の時間を通して、地域のひと・もの・ことについて理解を深める体験活動と協働に関する学習を充実させること。

最後にありますが、児童生徒の発達段階に応じて、年間指導計画作りの連携を深めている最中でございます。現段階で昨年度までの成果指標としまして、まずふるさと教育について実施しているかということにつきましては、全て市内の小学校・中学校ともに達成をしております。ふるさと教育と称した総合的な学習の時間の取組をしている。ただ、二つ目の資料であります年間指導計画の小中学校で連携して作成している学校数については、現段階では未達成です。今出来ている段階としてはどんなところで出来ているかということ、最後の資料になりますが、一覧にしております。テーマとか探求活動・おもな学習内容を洗い出してすり合わせをしている段階にあります。

少し戻りまして、その前のページ、5ページですが、総合的な学習の時間における伝統芸能について、学校運営調査の昨年度の結果で示している資料があるのですが、例えば真ん中ほどに、伝統芸能で御厨小学校は御厨くんちに参加したとあります。これを総合的な学習の時間や地域行事、いわゆる土日で参加しています。志佐小は和太鼓をやっていますよ。上志佐小は田ノ平浮立をやっていますよ。調川は地域の伝統文化、松山田浮立。今福小はくんち、鷹島小は元寇太鼓、御厨中は蛇踊り、今福中は和一処、今福音頭、そういった伝統文化、芸能というものを取り入れています。

最後の6ページ目になりますが、先ほど申しましたが年間指導計画についてはまだ摺り合わせの段階ですが、概ねですね、やはりふるさと教

	<p>育ということを意識して人材育成にあたるための厳選したテーマを盛り込んで、それぞれの学年に応じた視点を置いて、計画をしているところでございます。細かな内容については後ほど時間があればお話しします。学校教育課としては、現状を報告させていただきました。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。では続いて文化財課からお願いします。</p>
<p>文化財課長</p>	<p>はい。文化財課ですが、文化財課も教育振興基本計画の中におきまして、その中の文化財関係の施策の2、文化財の情報発信という中で、歴史文化に触れる機会を提供するといったことで活動しています。主なものといたしましては、小中学校を対象といたしました体験学習といいます埋蔵文化財センターのツアー、それから各学校に出向きまして、松浦党ですとか鷹島神崎遺跡の紹介をする出前講座ということも行っています。昨年の実績では、体験学習を5校で出前講座を3校いたしております。またそのほかにも、鷹島中学校の職場体験の受け入れ、埋蔵文化財に関する職場体験の受け入れ、それから鷹島小学校での水中考古学クラブを月に1回、年間に8回程度行っております。また、鷹島公民館講座を通しまして、鷹島地区の小中学生を対象に、水中考古学教室というのを実施しているところであります。また特に昨年は、公立学校教職員研修ということで、3年目の教諭の方の研修の受け入れも行っております。本年度ですが現在、体験学習ということで、小中学校3校の申し込みがっております。また、出前講座でも、小中学校から2校と市内の小中学校の教頭会の現地研修会ということでも申し込みをいただいております。また、博物館学芸員資格の取得に係る博物館実習のお申し込みをしております、それも受け入れることとしております。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。生涯学習課お願いします。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>生涯学習課につきましては、所管する公民館が8館ございまして、西の方から星鹿、御厨、中央、上志佐、調川、今福、福島、鷹島ございまして、一般の方が学ぶ機会ができないかと教育長から指示が出まして、今年度の公民館の主催講座として、文化財課の協力も得ながら、鷹島海底遺跡についてという講座を各館で年に最低1回は計画してほしいということで、今公民館に投げているところでございます。それと松浦の民話は、松浦地区はあるのですが、福島、鷹島地区は民話がないので、手がけてほしいということで、昨日、福島の区長会がありまして、うちの課の川村参事が参加しまして、民話があるかないかということで、情報提供を呼びかけたところであります。来月、鷹島区長会に参加しまして、そういった情報や資料がないかお願いをしたいと思っております。生涯学習課は、以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>では、教育総務課。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>はい。教育総務課として、直接ふるさと学習については、なかなか難しいところもありますが、統合に伴いまして御厨小学校にスクールバス</p>

<p>市長</p>	<p>が1台ございます。ドライバーを含めて29人乗りですので、実質28人しか乗れませんけど、それを使って、埋蔵文化財センターの方に数校行っております。昨年の場合、御厨小学校と調川中学校が埋蔵文化財センターに行っています。登下校時間外の有効活用という形ですので、限られた時間で、また人数も限られておりますけどそういった形で使われています。目的外の利用という事でいきますと、全体では39回ありまして、そのうちの2回が鷹島の埋蔵文化財センターに行っています。簡単でありましたけれども、以上です。</p> <p>それでは、簡単ではありましたが、現在、郷土を誇りに思うふるさと学習という意味での小中学校での取り組み、文化財課での取り組み、そして生涯学習課、教育総務課での取り組みそれぞれ報告がありました。皆様の方から今の説明、報告に対して何かご質問等ございましたら、出させていただきますと思います。</p> <p>皆さんに考えていただいている間に、子どもたちの総合学習の時間に故郷の問題をいろいろするとき、今どうですかね、基本的にそれぞれの小学校区・中学校区、広くても中学校区までなんだろうな。小学校だったら小学校区にありましたけど、これが中学校区になっていくと、若干広がるとはいえ、さっき先生がちょっとおっしゃった、それを高校にどう繋げていくのかという意味では、松浦市は松浦高校とのいろんな共同事業をやっていて、まさにこういったその自分たちで答えのない課題にどう対応するかというのは、松ナビが目指している姿なんだろうなと思うんですよね。だから、松浦高校も今非常に積極的に小中学校に働きかけをしたいということなんですけど、小中学校の連携ができれば、その市内唯一の高校との連携というのもステップアップしていくという計画なのか、このあたり少し教えてもらえますか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>先日、松浦高校の校長先生との話の中で、ぜひ松ナビの取り組みを、特に今やっているプレゼンの発表を中学生に直に見せて、先輩としてこういうことをやっているという姿を各中学校で見せたいというような意向を持っていると言われました。いくつかの中学校でも、そういった取り組みをしてくれというご要望がでておりますので、そういった動きがおそらく今年度実現するんじゃないかなと思うんです。副次的に中学生がその松高の生徒を見ることによって、松浦高校進学してみたいなという生徒が増えればいいなということをおっしゃっていただきました。そういうことを含めて、そういう学びを通して、生徒の発表の場面を中学生に見せる、そういう繋がりには出来つつあると考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>中教審が言っているように、課題を解決する力みたいなのを伸ばしていこうということになると、子どもたちが、例えば小学校の高学年ぐらいになったときに、この総合的な学習って何の役に立つんだろうと思うんじゃないかな。そういうときに、これが中学校に行って高校でこんなことになるんだよっていうのが、自分の成長した姿、こういうことをするんだっていうふうに繋がっていくと、もっともっとこの総合的な学習の必要性とか理解っていうか、そういうのが広まっていくし、</p>

	<p>松浦高校のような取り組みをしてる学校はそんなにはないものですから、我々としてはぜひ松浦高校に進学する生徒たちを児童・生徒を増やしたいという思いはあるんですけど。ここはそれぞれの自由選択なので、あまりそのルールにはめることはできないんですけど、ただ、そういうことをやってるんだなっていう姿を見せてもらうっていうのは大事だなと思うし、ふるさとを知るという意味での松浦高校の故郷にある学校の取り組みを知るといこともあわせていければいいかなと。</p> <p>では皆さんの方からご質問があれば、ご意見あれば、ぜひお出してください。こういうのをやりたいとか皆さんあれば言ってください。どうぞ。</p> <p>話になるかどうか分かりませんが、今されている、例えば総合的な学習の小中のカリキュラムとか、出前講座とか、水中考古学とか、とても故郷を大事にしてふるさと学習しようっていう流れになって推進されている、ということを感じています。それで、前の会だったと思うんですけど、ほんなもん体験を松浦市でやろうという話を聞いたんですけど、これは、また良いことだと捉えました。松浦のいいところはどこですか、何ですかって言われたときに、何もありませんっていうふうに、町の人たちも市の人たちも言われるっていうことが「まつうらが、でもいいんじゃない」の最初の方に書いてありましたし、松浦の方たちが、松浦の良さを知らない、ということで、まず足元に目を向けていろいろな体験をして行くというので、ほんなもん体験をしていくことは良いことではないかなと考えています。今流れて行っている方向は、ふるさと学習、子どもたちが自分の地域を誇りに思う基盤作りになるんじゃないかなと思っています。基本的には家庭で、学校で、それから地域でそれぞれ子どもたちが豊かにしっかりと育まれていけばその地域を大事に愛することに繋がっていくのではないかと感じているので、そういう取組をされるということは、とても良いことではないかなと思っています。</p>
<p>前田委員</p> <p>市長</p>	<p>今のお話の体験型のところは、地域経済活性化課がないものですから私が申しますと、まさにですね、これまで松浦市は体験型旅行の西の横綱と言われるぐらい先駆的にずっとやってきて、県内でもその後、あとを追ってきているいろいろ頑張ってる場所があるんですけど、少なくとも長崎県で、やっぱりトップランナー、全国でもトップクラスのランナーなんですよ。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大で、なかなか受け入れできないっていうのが続いていて、交流公社そのものも非常に経営的に苦しいわけですね。そこで、まずは市内、そして県内の子どもたちに来てもらえばどうかということで、参加費に市が助成をするという形ですね、参加者への参加料を支援するというので、格安で体験できるような取り組みを今やってるんですが、なかなかこれも落ち着かないとですね、皆さん厳しいのかなっていう感じがあって、ワクチン接種がどんどん進んでいけば、皆さんの意識も変わるかなと思ってるところです。加えてやっぱりそれぞれの学校の活動の中で、既にいろんな取り組みがあって、そのあたりでも整理がまだまだ必要かなあということですが、やっぱりぜひ子どもたちもですね、県外から来た人が松浦に来て泣いて感動して帰るのに、それを地元の子も知らないとかやっぱり</p>

	<p>いけないなっていうものがあるもんですからね。今、前田委員がおっしゃるように、ぜひ積極的に市内の子どもさんたちに体験をしてほしいなと思っています。</p>
教育長	<p>関連して良ろしいでしょうか。</p>
市長	<p>はい、どうぞ。</p>
教育長	<p>ほんなもん体験については、校長会の中でもですね、事務局の石井さんが詳しく説明されて、市からも一定の経費の補助をしています。御厨中も、地元のことを学んでいますし、本当にありがたいということでした。なかなか修学旅行になるとですね、それをこっちに代えるということは、目的が違うので難しいのですが、それを学ぶ機会を与えるというのは、私もぜひやってほしいと思うし、今後その辺しっかりお願いしているところでございます。</p>
市長	<p>金井田委員は以前、石工の関係でいろいろ子どもたちにはレーザーで彫刻だとか、革製品にしたりとか、実際にやられてましたけどいかがでしょうか。子どもたちに対するふるさとの歴史だけでなく産業も含めてですね、ふるさと教育ということについてですが。</p>
金井田委員	<p>はい。さきほどの話の中で、いくつか出ていたんですが、鷹島においては、産業は、3年生から6年生までそれぞれの企業、職場に行っの体験っていうものがあるんですが、せっきくの松浦市ですからですね。本土の学校も体験に来られたらという話もしたことはあったんですが、どうしても最終的には移動手段ですよ。その中で、教育総務課の方もお話されていたんですが、マイクロバスが29人までしか乗れないので、乗れない学校も2校ぐらいあるんですかね。そういったところで、移動手段として、大型バスを借り入れるとか、また別に鷹島に行くんだったら、片道はフェリーでもいいのでないかというような話もしてたんですよ。やっぱり地元は地元であるんで、本土からの受け入れを島は島で行っていく。鷹島は遺跡もあるし、阿翁石もあるし、養殖もありますので、今後来られたらいいかなと思っています。</p>
市長	<p>そうですね。移動手段が課題になるっていうのは以前から言われているところございまして、船に乗るといっても船着場までいかなければいけないし、ここがまた課題になってしまうところですね。御厨、今福ぐらいはそれぞれ発着点があるんですけど、志佐の子どもたちが船で行くにしても、船着場まで行くんですよ。1クラス28人乗れないのは、どこですか。</p>
教育総務課長	<p>28人で乗れないのは、志佐、御厨ですね。</p>
市長	<p>先ほど、内野課長の方から出前講座とか体験とか各学校から申し込みがあるという報告がありました。バスに乗れない志佐中学校だとか、</p>

	<p>御厨中学校とかっていうのは、現状でこれまでも含めてどんな感じですか。</p>
文化財課長	<p>まず例としてですが、御厨小学校については議会のバスをお借りして2台体制で行ったということがありました。ただ、これはスケジュールがきちっと合わないといけないということと、運転手の確保が必要となるので、その辺をうまく整理ができればとなります。志佐中学校についてなんですが、全員というのではなくて、何かテーマごとにいろんな体験をされるというパターンがあって、令和元年の時に中学1年生が来られたという例がございます。あと、やはりそういう人数が多い志佐小学校に関しては、出前講座とか、鷹島の方から遺物とか潜水機材とか持っていくって、親しんでもらうような工夫を行っているところです。</p>
市長	<p>そうですね。おっしゃる通りタイミングが合えば議会のマイクロバスを使えるわけですね。御厨小学校と議会のバスとか。議会のバスかな。市のバスかな。</p>
文化財課長	<p>議会管理のバスですね。</p>
市長	<p>ぜひ、その様な活用をしながらですね、小学校はどうしてもその小学校区内になるんでしょうけど。中学校で松浦市全体の産業を知っている意味では、福島や鷹島のそういった産業を知っているのも大事なことです。平原委員いかがでしょうか？</p>
平原委員	<p>平成18年に鷹島、福島と旧松浦が合併して、地理的に行政上は不利な部分も結構あるんですが、逆に言うと、子どもたちにとっては、あそこも松浦かっていう部分があるだろうし、先程から出ている様に船だったりバスだったりをうまく利用して、現地に赴き、触れるってということ。子ども同士でもいいし、産業でもいいし、そういうものに触れるって意味は非常に大きい。逆に不利では無くて、可能性を伊万里を含めて広がっているのが松浦市かなっていうぐらいに思ってます。そういう意味でふるさと教育というのは、まず自分のところを知ろうね、学ぼうねってというのは非常に子どもたちにとってはいいと思います。いいねって思う部分もあるかもしれないし、松浦ってここがいかんちゃんね、って思うところもあるかもしれないけど、そういう時間がいいことだろうなと考えます。</p>
市長	<p>そうですね。伊万里湾をみんなで囲んでるわけですから。そういった意味ではですね、いろんな取り組みができると思うんですけど。やっぱり移動手段、どうしても子どもたち全員を移動させるって、その手段に大きなハンディキャップがあるっていうのはありますね。氏山委員いかがでしょうか？</p>
氏山委員	<p>先ほどから皆さん言われてますけど、知ることが大切だと思います。御厨中学校では、味覚体験学習とあって、インストラクターの皆さんが</p>

<p>市長</p>	<p>芋餅、そばなど1から作り方を教えてもらうという活動があります。そこに行って経験するのももちろんそうなんですけど、やっぱり人との関わり、蛇踊りもそうですけど、真剣に指導してくださっているの、練習中ふざけていたら、蛇踊りのおじちゃんたちが叱ってくれるという良さもあります。おじちゃんたちを見て、自分も大人になったら蛇踊り保存会に入ろうという子もいます。地域の人を知って、その地域の人の思いに触れるのに、とてもいい活動なので、今後も続けていってほしいと思います。</p> <p>そういった郷土芸能のようなものです、少子化に伴って、その担い手がいないということで、非常にそういったものの存続が危ぶまれているところもあるんですが。</p> <p>以前お話したかもしれませんが、例えば、長崎のおくんちの踊町が7年に1回、回ってきますよね。あれ本当に踊町の人たちだけでやるかってそうじゃないですよ。結構外の人に来て、そこで練習して担いでるっていうのが多いんですよ。だから、先ほどの金井田委員がおっしゃるとおり、松浦市で一つなんだからっていう意味では、まず、中学校区あるいは小学校区に子どもたちがいないのなら、お隣の学校区の子どもたちにも参加してもらおうとかね。例えば蛇踊りはあんまり自分は向いてないけど、太鼓を叩きたいんだとかね。太鼓はあんまり興味ないんだけど、いっぺん和一处を担いでみたいとかね。あるいは、いっぺん鷹島の和船競漕（せいぐろ）に参加してみたいとかね。なんかそういうのが、どうやって移動するんだとか練習をどうやってするんだって課題があるんですけど。そういうのっていうのは、もう子どもたちが限られているわけですから、その子どもたちにいろんな体験ができるんだっていう門戸を開いていくっていうことも一方で大事じゃないかなと思うんですよ。御厨の蛇踊りも私はよく知りませんが、私よりも年上の方々が言うには、その昔は駅通りの人しかできなかった。駅通り以外の人には担がせんと言われた。それがですね、そがんこと言いよったらもう担ぎ手がいないということで、旧御厨小学校全域に広がり、御厨小学校が統合をして、小学校の子どもたちはみんないいよみたいになって、中学生も総合学習する。そうすると、実際に大人になって広がっていったんですよ。だから多分、そういうふうに昔からの厳しい習わしでいくとできないんだけど、そこを変えていくっていうのが必要かなと思うし、福島もそうですよね。流派があつてね。土谷浮立と浅谷浮立と流派があつて、絶対もうそこじゃないと駄目だつて。それがあつて守れるっていうのはあるんだけど。でも百何十年の歴史を誇っている長崎の龍踊りですら、実際にはそういうことなんですから、結局担い手がいない、する人がいないで無くなってしまふよりも、他の人たちに練習やらせて、するっていうことの方がいい。そうしないと多分そういった伝統文化は残らないと思う。だから、大人がなかなかやりにくいので、何か子どもたちができればいいんじゃないかな。あの鷹島の和船競漕（せいぐろ）なんて鷹島中学校だけでなく、いや中学校は練習どうするかっていう課題があるんですよ。あるんだけど、中学生が、あと他のところからちょっと来て、やってみるとかね。以前福島もありましたよね、和</p>
-----------	---

	<p>船競争。でも和船だけは保管されてるんですけど、そういうのがなくなって、唯一やってたのが鷹島なんですけどコロナの影響で2年連続中止。鷹島はコロナさえ終息すればまたやられると思うんですけどね。5月の5日なんで、連休中に移動するっていう難しい課題はあるんですけど。でもそれはそれでなんかいいんじゃないかなっていうのはありますよね。賑わうでしょうね。</p>
前田委員	<p>すみません。全然違うかもしれませんが、和船競漕には先生方も乗ったりされますか。</p>
金井田委員	<p>はい。乗ります。</p>
前田委員	<p>私も壱岐で乗ってきました。漕ぎました。だから、面白かったと思うので。</p>
市長	<p>中学生は事前に練習してるんですか。</p>
金井田委員	<p>練習は何回かあってますね。</p>
市長	<p>するんですね。練習しないとなかなか漕げないですよ。賑わいますよ。おばちゃんたちがもっと漕げと言われるから、面白いですね。男性よりおばちゃんたちが。そういうのが多分、それぞれの地域にあるので、子どもたちにそういう事をさせれば面白いんじゃないかなあという気がするんですね。クラブ活動も複合的に2校合同でやったりとかあるわけですから伝統芸能でもいいのかと思いますけど。</p>
前田委員	<p>すみません。</p>
市長	<p>はいどうぞ。</p>
前田委員	<p>生徒会の発表がありますよね。</p>
市長	<p>生徒代表者会議。</p>
前田委員	<p>あの議題の中にですね、地域の事をちょっとでも入れてみたら。学校の活動をしていることだけでなく、こんなこともあります、この地域はということを入れて発表してみたらどんなですかね。どこかで発表させて、他の学校の子どもたちに見せていく。知ってもらってっていうのも足しにはならないかもしれませんが、どんなかなと思って。</p>
学校教育課長	<p>よろしいですか。</p>
市長	<p>どうぞ。</p>
学校教育課長	<p>素晴らしいことでありがとうございます。生徒代表者会議が、もとも</p>

	<p>との起こりがいじめ根絶というところからのスタートで、生徒会活動のお互いの良さを語り合って、でもやっぱり地域のそれぞれ背負ってる違いがありますけども、それを含めたところでの交流があります。今年度考えてるのはですね、もしも集合型が難しければ、リモート、いわゆるZoomを使って意見交換、あるいは下打ち合わせ準備などもやっていこうかっていうことで、ちょっと今までとは違うやり方で、これからの時代を担う子どもに合ったやり方でも試してみようかっていう話があります。</p> <p>今ご提案いただいた中でのですね、いわゆる生徒会あるいは中学生同士の交流はぜひですね、これはリモートを使ってですね、私はやっていこうというふうに考えているところです。今言っていた地元の良さをPRする、ここは非常に大事だなと思っています。先ほど氏山委員から言われた、やはりこの地域の伝統文化、まちづくりに関わっている人たちの熱意とか思いとかそれを吸収してですよ、そういう人々の出会った熱い情熱を、生徒たちがどう受け止め、考えているのか、それをぜひ中学生の視点でそれぞれの学校で体験したことを発表させたいなという思いはあります。どこまでできるかわかりませんが、この総合的な学習の時間をかけて、それから流れを持っていけたらなと思います。まず前田委員が言われた内容についてはどこかで取り入れていきたいと思えます。</p>
平原委員	よろしいですか。
市長	はい。どうぞ。
平原委員	はい。ふるさと教育、学習っていうのは、まとめ上げて成果を発表するような場というのはなかったのですかね。
学校教育課長	<p>はい。基本的にですね、学年の取り組みの表現をするという最終的なゴールはあります。最終的にどんな力をつけたのかという表現力だったり、あるいはまとめる力だったりとかいうのが身についたかどうか評価しています。発表することがメインではなくて、そのためにいろんなどんな学びをしていったのかっていう、学び方を学ぶということと、学んだことを自分だけでどれだけ見つけたかっていうところが一番大事である。その上で、やっぱり人々との出会いの中で感化を受けたことを自分の中の生き方として、人生管理、どう影響を受けたかっていう、そういうところも含めたところでの発表をさせます。</p> <p>ご質問のあったような発表の場っていうのは、全体ではありませんが、各学年ごとでやっているという形です。</p>
教育長	やはり一番は学習発表会あたりでも、昔の文化祭ですね、保護者も地域の人も見に来ますので。
市長	児童・生徒等に対する郷土を誇りに思うふるさと教育っていうのは、実際にカリキュラムとしてやられてますので、ここをより充実させてい

	<p>くということで、今皆さんからそれぞれご意見があったんですけど、一方で、冒頭私も申し上げましたけど、この郷土を誇りに思うふるさと教育っていうのは決して児童・生徒だけが対象ではなくて、やっぱり大人もそれぞれ自分たちで自分の住んでるところ、自分たちの町をですね、しっかり知るっていうことが大切じゃないかなと思ってまして。</p> <p>先ほど生涯学習課長がふるさとの民話で福島、鷹島がないっていうのは、まとめられたものがないということですよ。冊子になってますよね、その中に入っていないということですよ。やっぱり、ああいうのってぜひ取り上げて、ちゃんとやろうとしないと、もうなくなってしまうよね。ぜひそこは教育委員の金井田委員、前田委員もそれぞれの地域のお話を出していただきたいと思います。</p> <p>一つ例を挙げれば、元寇サミットが今年の11月8日にあったんですが、なんで鷹島でせんやったとかって、そういうご意見もあったんですが、鷹島の方は、元寇のことをよくご存知なんです。興味がないって方もいらっしゃるかもしれませんが、知らないっていう方は基本的にいないと思う。一方で、この松浦地域や福島地域の皆さんは、中学校における教科書に載っているんです。私達よく言うものの、あんまり身近に感じておられないというか、そういうところに温度差が非常にあって、それをやっぱり払拭しなきゃいけないっていうのもあって松浦文化会館で実施したんですが、実際に松浦エリアの地域からですね、多くの皆さんがお越しいただいて、初めてこういうことを知りましたとか、そういうすごいものがあるんだということをわかっていただいたということです。</p> <p>引き続き文化財課、いろんな取り組みをして、新聞とかですね、取り上げていただいて、市民の皆さんに周知していくということが大事なんです。やっぱりそういうものを表に出してくる作業は、行政がやらないと、あるいは教育委員会と一緒にやらないと、なかなか市民の皆さんが触れる機会がないと思うんですけど。</p> <p>この辺りで皆さんのご意見が、こういったものをもっと上手にやったらどうだっていうのがあれば、お聞かせいただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。</p>
前田委員	はい。
市長	はい、どうぞ。
前田委員	<p>土曜日がお休みになる前に、隔週で休みになって、ふるさと学習というのを福島でやっていました。縦割りで何班かに分けて行って、寺山団助さんのところとか、樺の森とか土谷棚田とかいろいろなグループを作って、そこに3時間、4時間かけて移動させて調べて回ったり、図書館に行ったり、地域のお年寄りに話を聞いたり、そういうふうなネットワークじゃないですけど、歩いて回って調べたことが、何年間か続きました。ですからそういう今では考えられないことかもしれませんが、歩いて行って調べていく、カリキュラム上難しいし、いろいろなことをやらなければならぬので、難しいと思うのですが、またそういうものもあ</p>

	ればいいかなって思ったこともあります。
市長	これはもう子どもたちのみならず大人も参加するっていうのは、今の時代としてはできるのかもしれないですね。どこがコーディネートするかっていうところなんでしょうね。
教育長	はい。
市長	教育長どうぞ。
教育長	それこそ何かコミュニティスクールっていうのが、上志佐みたいになれば、そういう組織があれば、地域、もちろん子どもたちも交えてですね。今年度は、福島の方が、立ち上げされましたよね。
前田委員	志佐もされましたよね。いつか志佐川探訪がありましたよね。
市長	それは、文化協会ですね。文化協会から説明されたりされたかな。大人向けの教育は公民館が中心になりますよね。何か、こんなふうにやったらどうだっていうご意見ありませんか。生涯学習課長、今、公民館講座で、出前講座とかで公民館の自主講座じゃなくて、市がラインナップしている出前講座の中で、人気があるのはどんなものですか。課長が、なんとなくこうぱっと思いつくものは、どうですか。
生涯学習課長	最近は健康志向で、ニュースポーツとか、体を動かすこと、健康的な。そういった出前講座が多いですね。
市長	そういった方々の地元の史跡めぐりなんていうのもいいかもしれないですね。
生涯学習課長	なかなか歴史に詳しい方が高齢者になってきて、令和3年度のメニューが最近出来たんですけど、講師の先生が高齢で対応出来ないとか、そういったメニューが減りつつあるんですよ。詳しい方が高齢で行けない。引継ぎが難しい。ボランティア編の歴史に詳しい方が少なくなった。
市長	歴史もそうですけど、実は先月の市報から、松浦の企業の紹介を載せるようにしたんですけど、何回も何年かに1回こんなことをやっているんですけど。これを子どもたちが知らないだろうって思いもあるんですが、子どもたち以上に大人も知らないんですよ。近江鍛工で何を作ってるか知ってる大人はあまりいないと思うんですよ。子どもたちの方が知ってるかもしれない。氏山さんは地元なのでご存じでしょうが。近江鍛工を、炭鉱、今どき石炭を掘っているだろうかと思っている人もいるだろうから。そういう人がいるんじゃないかなと思うんですけど。産業とかもですね、やっぱそういうのを大人に知っていただくっていうのも大切だと思うんですよ。公民館講座で、企業の方が来て、うちこんなことやっているんですよっていうのって、企業はしてくれるかな。どう

氏山委員	ぞ。 それこそ今中学1年生がやっている企業見学バスツアーとかの大人版でされたら。
市長	その部分は本当に大切に、親御さんたちが地元の企業をよくご存知じゃないから、地元で働くところがないから、子どもは仕方ない、市外に行くんですよっていうことを、最初からを諦めておられるみたいなのところがある。これは松浦市のみならず、長崎県がそういう所が多くて、最近長崎県が一生懸命コマーシャルをやってますよね。ああいうのはもう、社会減があまりにもひどすぎて、対策をとらなきゃいけない。大人の方、例えばおじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さんが、そういう会社のことを知ったら、ここはそがんことばしよったと。そんならうちの子をここで働けば良かと思っただけのんじゃないかなあというのがあるんですよ。そういうのもふるさと教育ですよ。
教育長	はい。
市長	どうぞ。
教育長	地域経済活性化課の事業として、地元の優良企業を中学生について、連れて行こうということをしたことがありまして、中学生が世界に通じるような企業がたくさんあるということで感激したと言っていました。そういったものもぜひ必要ですし、例えば保護者も一緒に参加できて、松浦に残って働きたいっていう子どもを増やすことにもなるので、そういった面もですね、関係課と連携しながらやっていけたらいいかなと思います。
氏山委員	はい。
市長	どうぞ。
氏山委員	味覚体験学習は保護者も OK なんですよね。だから、それなら企業見学も保護者も、先ほど言われたようにされたらいいなと思います。
前田委員 市長	はい。 どうぞ。
前田委員	はい。職場体験学習がずっと続いてますけれども、これも大事にして行って欲しいなと思います。こういうところでうちの母は働いてるんだとか、父は働いているんだとか、そういうことを通して学ぶことがとても大事なことだと思うので本当にいい体験だなあと思います。最初から子どもたちが回って、地域にこんなのがあったんだっていうふうなことも調べながら、やっていったらいいのかなと思います。以上です。

金井田委員 市長	はい どうぞ。
金井田委員	以前、松浦市の中学校の先生がですね、理科の専攻の先生だったんですが、体験に来られた時に。それは今もうなさってるんですかね。企業にずっと回られていますか。
学校教育課長	今されてるかどうか分かりませんが、多分自分の専門職の幅を広げるという意味での体験だったんだろうというふうに思います。
金井田委員	今は分からないですね。
学校教育課長	はい、そうされているかまでは分かりません。
教育長	多分、中学校の社会科部会ですか。
金井田委員	社会科部会だったのか、その時は前田先生がいらっしゃったんですが。
教育長	そしたら違いますね。別の視点から。
市長	どうぞ。
教育長	そういったものを知らない人が学ぶっていうのがあるんですけど一方、例えば歴史とかを学ぶということがあるんですが、詳しい人が教える、教える人の喜びというのも、私はあると思う。自分のことで恐縮なんですけど、毎年、上志佐小学校五、六年生に化石の指導しているんですけども。本当に県内でも有数の化石地帯なんですね。もう素晴らしいのはたくさんあるんです。ですから子どもたちも目を丸くして喜びますし、実際に私も嬉しいんですよ。ですからおそらく金井田委員も石工とか自分の生涯かけたものを全て伝える、そういう喜びというものもあるので、その視点も大事なかなと思います。
市長	公民館のそれぞれの文化祭だったりとか、公民館祭りとかでいろいろ作品を出されますよね。あれはだから、出来上がった成果物を出したり、練習したものを披露したりということなんですけど、そういうところに何か例えばそれぞれの地域の特色あることをPR するとかいうのは、そんなに大変な作業ではなく、プレゼンをしろとかじゃなくて、その地域のものを少し紹介するとか、要は、文化会館の例えばのハワイエのところにそういうのをしたりして、公民館活動をなさってる方、文化活動をなさってる方からまず広げてみるなんかはどうですかね。やっぱり大人にもぜひ地元のことをもっともっと知っていただきたい。もちろん行政の役割としていろんなことを働きかけはしていかなきゃいけないと思うんですけど、なかなか先ほどの地域の伝統芸能だとか、というふうになると、なかなか行政が踏み込めないところがありますが。文化財課どうですか。伝統系のさっき私が言った浮立とか。

文化財課	<p>やっぱり自主的にやってもらうっていうのが基本なので。やったことを、我々としては、こんなすごいことやってるんだよといういわゆる間接的に。例えば田ノ平浮立はこういうことやられてるんですよっていうのをずっと伝えながら。要するに、日々日常、年間の行事としてやることが本当にもものすごいことだよっていうのを回って聞こえるようにしたいなというふうに思ってます。間接的にですね。だから他の人からそういうことをしているんだねって分かるような、いわゆる自分たちでは気づけなかった部分を周りから気づかせてもらっている、といえるようなものにならないかなということやってる。そういうふうに思ってやっています。</p>
市長	<p>それは大事な視点でしょうね。そういう意味では、我々行政としては、そういった取り組みを上手にプレスリリースをして取材をしていただいたりとか、そういうのですよね。松浦ケーブルが本当に熱心に来てくれるんですけど、松浦ケーブルの加入者が限られててですね、なかなか広がらないところなんですよ。熱心に来てくれるんですよ。松浦市役所でプレスリリースをすると必ず来ます。しっかりビデオとかも撮ってくれるんですけど、市役所1階ロビーでは流れてますけど、文化会館でも流れてるんですけど、加入者っていうのが、どうしても限られていてね。</p>
平原委員	<p>ある人から平原さん見たよって言われたことがあるんですけど、僕自身は知らなかったんですけど。たぶん西海テレビだったと思うけど。そういうのはよそから入ってきて、未来会議だったと思いますけど。</p>
市長	<p>その辺のメディアの脆弱性っていうのは、松浦の課題だと思うんですよ。離島などは、例えば壱岐の離島などはですね、全域に早くから光ケーブルが引かれていて合併特例債か何かで引いて、それと同時にケーブルテレビができたんですよ。ケーブルテレビができて、もう本当に細かい取り組みいっぱいやって、私もそのケーブルテレビの話聞きにいったことあるんですけど、加入者を増やすためには、幼稚園保育園の運動会、お遊戯会を徹底的に撮る。それを流すと、孫が出とるなら見らんばいけんということで、加入促進が図られる。積極的にそれを撮る。そういうことで、各家庭まで光ケーブルがきていましたんで、加入しやすかったんですよ。それで、そういう舞台があると、取材してもらって、さっきのその地域のそういったものをお知らせを知らせることができるし、例えば企業のことだとかもお知らせすることができるんですよ。その辺がちょっとメディアの脆弱性、松浦の弱いところです。でもやっぱり限られた紙面なんですけど、熱心に文化財課もずっと郷土のものを毎月、毎月お知らせしているし、そういった紙面をやっぱり有効に活用して、どんどん市民の皆さんに読んでもらう。そういう取り組みが必要かなと思いますね。</p> <p>課題は、たくさんあって課題がよく分かったことがあるんですけど、いずれにしても子どもたちの総合的な学習の時間を使ったふるさと教育は、今後も充実してやっていただきたいと思いますし、ぜひあの、先ほ</p>

	<p>どの計画にあるように、小学校と中学校の連携、そしてさらには、やっぱり唯一の地元の高校である松浦高校との連携をですね、やっていただきたいなと思います。併せて大人の皆さんにもふるさとを誇りに持ってもらうような仕組み作りっていうのは、これはやっぱり行政が担わなきゃならない分、教育委員会と手分けしてやっていかなきゃいけないと思いますので、引き続き市報などを上手に活用したり、我々はどんどんそういった良い取り組みをマスコミにリリースして、取材に来てもらえるようにやりたいと思いますし、地元の企業さんの紹介もですね、いろんな形で取り組んでいきたい、と思いますので引き続きご指導いただきたいと思います。今日のテーマで最後に何か、お気づきになった点とかがあればお知らせいただきたいと思いますが。</p>
金井田委員	いいですか。
市長	はいどうぞ。
金井田委員	元寇サミットの話が出たんですが、あと数10年後、数年後には元寇750周年ですが、以前は鷹島でやったんですが、松浦市としての考えはあるんですか。
市長	<p>750年という節目はですね、やっぱりその節目に注目されるわけですから、何らかの対応ができればなどは思いますけど、具体的にそこに向かって何か計画があるかっていうことではないですし、750年だから、記念式典をやるとか、そういうことになるのかどうか。現時点では具体的な計画はありませんが、ちょうど750年を迎えて、そこでこういったものを作りましょうっていうようなものを、そこに目標に向かってこれから取り組んでいくということは、一点あるのかなと思うんですね。ただいかにせん松浦市単独でできるところって非常に限られてるものですから、やっぱり今注目を浴びている元寇について、県や国の支援を受けながらできればいいなと思っています。元寇サミットをやって対馬と壱岐とですね、連携した取り組みをしましょうということになって、先日4月の頭にも、両市長と私と3人で、今後の進め方について協議をしたんですよ。コロナが落ち着いたら、いろいろ連携しながらやりましょうって言ってますし。そういったものを組み上げていって、ちょうど750年来ますねと。これは松浦だけじゃなく、対馬にとっても、壱岐にとっても、福岡にとっても、大きく言えば日本にとって750年ですから。だからその辺もどう他を巻き込んでやるかっていうところかなと、そんなふうに思います。答えになったかわかりませんが。</p>
金井田委員	どうかよろしくお願いします。
市長	では、よろしいですか。皆様の方から無ければ、事務局の方から。
教育総務課	はい。お疲れ様でした。この総合教育会議なんですけども、例年2回から3回開催をされております。以前の定例教育委員会の中でも若干触れられてるようなんですけども、次の総合教育会議の日程については、11

市長	<p>月頃を目途に開催できたらということで、計画があるようでございますので、お知らせいたします。また、この時期になりましたらですね、ご案内させていただきたいと思っております。</p> <p>私がテーマを決めて招集をかけるのですが、非常にそのテーマも毎回どういうテーマを皆さんと一緒に話せばいいんだろうかと悩んでいるところがございますが、先日事務局とちょっと話をしたのは、これまで取り組んできたもの、議論をしたもの、そういったものの現状がどうなっているのかとか、それがどんな成果になったのかとか、そういったことについても、もう1回振り返るような議題でもいいんじゃないのかっていう話をしているところです。もし皆様の中からですね、そういえばあのとき言ったこれどうなってるのかなとかがあれば、事務局の方にお伝えいただければ、次回のテーマの選定の際に参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、以上をもちまして令和3年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。</p>
----	--

総合的な学習の時間とは

中教審答申 第2章 2030年の社会と子供たちの未来から抜粋

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられる。

このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。

人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考えだすことができる。多様な文脈が複雑に入り交じった環境の中でも、

- 場面や状況を理解して自ら目的を設定し、
- その目的に応じて必要な情報を見出し、
- 情報をもとに深く理解して自分の考えをまとめたり、
- 相手にふさわしい表現を工夫したり、

◇ 答えのない課題に対して、多様な他者と共同しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

このため必要な力を成長の中で育てているのが、**人間の学習**である。解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続きを効率的にこなしたりにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どの様に社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。

中教審答申 第2部 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性から抜粋

第2章 各教科・科目等の内容の見直し

総合的な学習の時間の現行学習指導要領の成果

全国学力・学習状況調査の分析において、**総合的な学習の時間で探求のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど各教科の正答率が高い**ことが明らかになっている。また、総合的な学習の時間の役割は、PISAにおける好成績につながったことのみならず、**学習の姿勢の改善に大きく貢献**するものとしてOECDをはじめ国際的に高く評価されている。

今後の充実が期待されることとして、おおむね以下のような課題

- ① 総合的な学習の時間で育成する資質・能力についての視点

総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するということや、総合的な学習の時間と各教科等の関連を明らかにすることについては学校により差がある。

これまで以上に、総合的な学習の時間と各教科等の相互の関りを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにする。

② 探求のプロセスに関する視点（「課題設定」⇒「情報収集」⇒「整理・分析」⇒「まとめ・表現」）

探求のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分でないという課題がある。探求のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識する必要がある。

③ 高等学校における総合的な学習の時間の更なる充実という視点

地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、**小中学校の取組の成果の上に**高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にある。

中教審答申 第2部 第2章 総合的な学習の時間の役割から抜粋

- 総合的な学習の時間において、**各学校が教科横断的に目標を定めることは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵**となる。各学校が定める目標についても、資質・能力の3つの柱の考え方を踏まえたものとする。
- **教科横断的に学ぶ総合的な学習の時間において、各教科等の「見方・考え方」を動かせることによって、「見方・考え方」は多様な文脈の中で使えるようになるなどして確かなものになり、各教科等の「深い学び」を実現することにもつながる。**
- 学年間・学校段階間といった「縦」のつながりでも期待される役割が大きい。**小学校・中学校・高校の中で、どのような学習を行い、資質・能力を養うことを積み上げていくのかという中で、総合的な学習の時間においてどのような目標、内容の学習を行うかということが一つの軸になる。**
- 総合的な学習の時間は、目標や内容を各学校で定めるという点において、**各学校の教育目標に直接つながる。**

総合的な学習の時間 小学校解説（第4章指導計画の作成と内容の取扱い）

（2）に、中学校においても総合的な学習の時間の取組が連続的かつ発展的に展開できるようにするためには、9年間でどのような学習を行い、どのような資質・能力の育成を目指すのか、**小学校の全体計画や年間指導計画を踏まえた中学校の指導計画が作成されるよう、指導計画をはじめ児童の学習状況などについて、相互の連携を図ることが求められる。**

総合的な学習の時間 中学校解説（第4章指導計画の作成と内容の取扱い）

（2）に、**小学校における総合的な学習の時間の取組との連続性、高等学校における取組への発展的な展開のためには、**中学校の段階でどのような学習を行い、どのような資質・能力の育成を目指すのか、**小学校の全体計画や年間指導計画も踏まえて中学校の計画が作成されるよう、指導計画をはじめ生徒の学習状況などについて、相互に連携を図ることが求められる。**

第2期松浦市教育振興計画（令和2年度～令和6年度）

基本目標Ⅰ 生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）の育成

生涯学習の視点に立って、『生きる力』を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健康・体力」を身につけ、国際性豊かで、社会に貢献できる心身ともにたくましい人間を育てる教育を推進します。

- 施策1 児童生徒の確かな学力の育成
- 施策2 児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成
- 施策3 児童生徒の学びを支える学校づくりの推進
- 施策4 社会に開かれた教育課程の実現

施策2 児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成

⑤郷土を担う人材の育成

今後、グローバル化する社会の中で、自分とは異なる文化や歴史をもつ人々と共存していくためには、国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることが重要になってきます。

計画期間中の主な取組

市内小中学校において、「ふるさと教育」と称し総合的な学習の時間を通して、地域のひと・もの・ことについて理解を深める体験活動等、郷土に関する学習を充実させることで、自分が住んでいる町に誇りや憧れを抱くことができる子どもの育成に努めます。また、児童生徒の発達段階に応じて、探究的に地域学習に取り組めるよう中学校区による年間指導計画作りの連携を深めます。

目指す成果指標

◇総合的な学習の時間に地域の伝統や町づくり等「ふるさと教育」について実施している学校

	令和元年度（実績）	令和2年度	令和6年度（目標）
小学校	6校／9校	9校／9校	9校／9校
中学校	5校／7校	7校／7校	7校／7校

（学校運営調査）

◇総合的な学習の時間「ふるさと教育」の年間指導計画を小・中学校が連携して作成している学校数

	令和元年度（実績）	令和2年度	令和6年度（目標）
小学校	0校／9校	0校／9校	9校／9校
中学校	0校／7校	0校／7校	7校／7校

（学校運営調査）

「総合的な学習の時間」ふるさと教育の実施状況(学校運営調査結果より)

R3.5.24 学校教育課

【目指す成果指標】

◇総合的な学習の時間に地域の伝統や町づくり等「ふるさと教育」について実施している学校

⇒ 令和2年度 (小学校 9校/9校、中学校 7校/7校)

	御厨小	星鹿小	青島小	志佐小	上志佐小	調川小	今福小	福島養源小	鷹島小
⑤地域の歴史や伝統文化	○	○	○	○	○	○	○		○
⑥まちづくり		○	○	○		○	○	○	

	御厨中	青島中	志佐中	調川中	今福中	福島中	鷹島中
⑤地域の歴史や伝統文化	○	○	○	○	○	○	○
⑥まちづくり		○	○	○	○	○	○

【伝統芸能】

伝統芸能について	御厨小	星鹿小	青島小	志佐小	上志佐小	調川小	今福小	福島養源小	鷹島小
①総合的な学習の時間	○			○	○	○	○		○
②学校行事		○			○	○			
③地域行事	○	○	○		○		○	○	
④取り組んでいない									
活動例	御厨くんちについて調べたり、参加したりする	運動会で、児童・保護者・地域の方々が地域の音頭を踊った		和太鼓の学習・演奏	田ノ平浮立について調べ、地域の方のアドバイスを受けながら実践する	地域の伝統文化「浮立」を学び、学習発表会で披露している	今福くんちに向けての神輿づくりをする。今福くんちに参加する。今福神社の神主に、今福の歴史について話をいただく		元寇太鼓

伝統芸能について	御厨中	青島中	志佐中	調川中	今福中	福島中	鷹島中
①総合的な学習の時間	○				○		
②学校行事	○				○		
③地域行事		○			○	○	○
④取り組んでいない			○	○			
活動例	地域の蛇踊保存会と連携して、学習発表会での披露や地域での発表を行う				和一処 今福音頭 リズムなぎなた		

【目指す成果指標】

◇総合的な学習の時間「ふるさと教育」の年間指導計画を小・中学校が連携して作成している学校数

⇒ 令和2年度（小学校 0校／9校、中学校 0校／7校）

「総合的な学習の時間」学校別「テーマ」及び「探究活動・おもな学習内容」

R3.5.24

学校名	テーマ	探究活動・おもな学習内容			
御厨小	大好き、ふるさと御厨	3年【地域・伝統文化】○御厨の自慢探し○地域へ貢献している人たちの思い	4年【福祉・生命】○地域における福祉の現状と課題	5年【環境】○食をめぐる問題と農作物の生産活動及び体験	6年【平和・キャリア】○地域で働く人や機関○原子爆弾の被害
星鹿小	「体験・発見・発信しよう！星鹿・松浦と私」～ふるさとを知ろう～	3年【地域産業・音楽表現】○星鹿の野菜、地元魚でかまぼこづくり	4年【環境・福祉】○学校・家庭・地域のごみ○高齢者・障害者の生活	5年【郷土（農水産業）】○地域の農水産物（米・魚）の生産・管理	6年【職業・平和・福祉】○星鹿、長崎の職業、将来の夢○平和学習○福祉施設訪問
青島小	地域を愛し、地域の未来をつくる青島っ子	3・4年【命の大切さ・私たちの地域】○収穫祭に向けて・地域の方からの指導	5・6年【命の大切さ・地域とともに生きる】○平和学習○青島まつり・調査と撮影		
志佐小	3年地域について 4年地域の産業① 5年地域の産業② 6年長崎を調べよう	3年【私たちの地域】○地域の方から「お饅頭作り」を学ぶ	4年【私たちの地域】○松浦の農業について学ぶ（芋苗植え・芋ほり）	5年【私たちの地域】○米作り（水路見学、田植え、稲刈り、脱穀）体験	6年【長崎を調べよう】長崎の歴史や文化を調べる○修学旅行自主研修計画立案
上志佐小	上志佐が好き、松浦が好き、長崎が好き！	3年【上志佐を知ろう】○志佐川上流（ヤマメ釣り、川の役割）○田ノ平浮立体験	4年【上志佐調べ】○松浦市の位置とNo.1（漁業）○上志佐の文化（米・酪農・茶）	5年【上志佐の自慢】○農業・漁業（米・ヤマメ釣り）○周辺地域と上志佐のつながり	6年【上志佐のよいところ】○上志佐のよさを伝えよう○志佐中校区○アユっこ祭り
調川小	ふるさと	3年【地域の人々・伝統芸能】○松山田浮立○調川の土地の様子と土地の使われ方	4年【地域の人々と暮らし】○松浦の産業・名所・特産物調べ○夏野菜作り体験	5年【地域の人々と暮らし】○大豆栽培体験○松浦が誇る産業調べ○プログラミング	6年【松浦市の現状】○歴史、史跡、産業○修学旅行を通じて松浦の未来の発展
今福小	ふるさと教育	3年【大好き、今福】○町探検、町の自慢大会○和一处への参加	4年【守ろう、今福】○町、川、海、人と町づくり	5年【食と松浦】○米作りを通して○松浦の食	6年【職と松浦】○マイドリームプラン～プロフェッショナルに学ぶ
福島養源小		3年【町づくり、地域活性、伝統文化】○志水水産、東興産業見学○地域の祭り	4年【高齢者と支援】○福祉施設訪問○福祉体験（車いす、アイマスク）	5年【情報の進展と社会の変化】○プログラミング動画・教材	6年【実社会で働く人々と自己の将来】○福島で活躍する人々○自分の将来と生き方
鷹島小	3年鷹島すごさ4年故郷のよさ5年自然の恵み・古郷鷹島6年未来の鷹島プロデュース	3年【鷹島のここがすごい】石工業・養殖・元寇太鼓	4年【伝統文化を調べよう】○伝統文化と元寇○石工業	5年【自然からの恵み】○漁業（養殖）体験○稲作体験	6年【未来の鷹島町】○鷹島町をプロデュース○壁画制作
御厨中	郷土に生き、郷土に学ぶ	1年【郷土を知る（産業・勤労）】○味覚体験学習○企業体験バスツアー	2年【郷土に学ぶ（職業・勤労・伝統文化）】○職場体験・講話○高校調○蛇踊り	3年【郷土への貢献（社会貢献・自己実現・伝統文化）】○修学旅行・進路学習・蛇踊り	
青島中	青島を世界に向かって発信しよう	【地域の課題・生き方・人権】○地域の特徴を知り、発信する。			
志佐中	1年地域を知る 2年地域から学ぶ 3年生き方を考える	1年【身近な地域の調査】○市内の福祉設備調べとかかわる人々	2年【地域の事業所訪問】○地域で活躍する企業や人々調べ○地元のよさと他との違い	3年【職場体験・進路学習】○職場体験を通して自らの将来の進路設定	
調川中	1年町づくり 2年職業 3年町づくりと伝統文化	1年【松浦を知ろう・かかわろう】○人口減少が進む松浦市の現状○町おこし	2年【職場体験学習】○地元の産業、地元の人材にかかわりながら働く体験	3年【郷土のよさと課題】○他地域の文化や歴史○郷土のよさや課題	
今福中	1年ふるさとを知る 2年ふるさとの職業に学ぶ 3年ふるさとの未来を考える	1年【人と暮らし】○地域インタビュー○伝統芸能（和一处、リズムなぎなた、今福音頭）	2年【職場体験】○職場体験（市内）○伝統芸能（和一处、リズムなぎなた、今福音頭）	3年【他地域と郷土の文化の比較】○伝統芸能（和一处、リズムなぎなた、今福音頭）他	
福島中	自己の生き方を考える	1年【働くことの意味】○職業調べ	2年【いろいろな働き方とその生き方】○職場体験活動	3年【私らしい働き方・生き方】○経営体験	
鷹島中		1年【郷土をみつめる】○環境調査（鷹島大橋）○防災学習○歴史探訪（遺跡巡り）	2年【自己をみつめる】○職場体験学習（講話等含む）○上級学校調べ	3年【未来をみつめる】○情報発信教育○修学旅行交流活動計画○進路実現スキル訓練	